

特別活動研究会 会報11号

KAWASAKI 特活

学級活動 (1) (2) (3) 児童会活動 クラブ活動 学校行事

川崎市立小学校 特別活動研究会

検索



令和5年度 小教研授業研究会 特別活動
令和6年1月17日(水) 川崎市総合教育センター



給食協議会 「しっかり食べて健康になろう～給食で食品ロスを減らそう～」
川崎市立片平小学校 担任・学校栄養職員

〈提案発表〉

- ・「SDGs」「食品ロス」「大豆ミート」を取り入れた授業提案。
→授業の詳細は「川崎市特別活動研究会HP」に指導案が掲載されています。
- ・学校栄養職員の取組
→「給食の時間に教室へ」「給食に関するクイズの掲示」「給食室の様子をプリントで配付」
「継続的な食育になるよう、各学年、年間一度以上の授業実践を目標にしている」
- ・成果
→「子供たち一人一人の成長」(自分自身の食生活に立ち戻り…自分事として)
「クラスとしての成長」(みんなで協力して食品ロスを減らそうとする雰囲気)
- ・課題
→「積み重ねが少ない分、問題意識をもつことが難しい」

〈研究協議〉 (○担任、●学校栄養職員)

- ①今回の授業で重視したことは？
○子供たちがどのように実践をする姿をめざしたか。どのようなめあてが立つことを想定したか。
●「食品ロスを減らすこと」「大豆ミート」を結びつけることを意識
授業では、「給食」で取り組むこと
- ②指導前に「SDGs」「食品ロス」など、興味がある児童はどのくらいいた？
○TVで見ていた程度。ほぼ、知らない状態でスタートした。
- ③「見つける」の子供たちの話合いの場面で、子供たちの意見を引き出す工夫は？
○「牛乳はどうする？」「苦手な○○どうする？」などの声掛けをしてみわった。苦手なものがあれば、それをどうするか。苦手なものがない子はアドバイス役にもなった。
●具体的に食材名を書けるように声をかけた。めあては2年生までの授業と似ていても、今回は健康のためだけではなく、「食品ロスにつながる」というところがレベルアップ。
- ④授業から半年。今、給食時間にどのような声をかけているか。
○まず、教師自身がよく食べること。「おいしかったね～」と共有すること。
食缶に戻しに来るときに声をかける。「明日はもう少し食べてみる？」「今日はたくさん食べたね！」

〈指導講評〉

川崎市総合教育センター 下村 智英 指導主事

「SDGs×キャリア在り方生き方教育×特別活動」であった。

〈継続してほしいこと〉

→年間指導計画がある。自身の学校の計画の見直しを。

→既習を活かしている。

→めあての実践。

→学校栄養職員と担任のTT

先生たちが仲良く元気に授業をしている。事前の打ち合わせも大事。

〈これから意識してほしいこと〉

→系統性のある継続的な検討。

→今回の授業のつながる先は？

→話し合い活動であること。

→児童への価値づけ（特に栄養職員の「お、空っぽだ!」「わ～すごい!」など）

提案発表の後は、川崎市王禅寺中央小学校 総括学校司書 清田有希子先生から「心にも栄養を！読書のすすめ」というテーマで講演をしていただきました。学校司書の役割を教えてください、食に関する本をたくさん紹介していただきました。学校栄養職員と学校司書のコラボレーションの提案もありました。